年度	2027 年度
試験日	2026 年 9 月 25 日（金）
学部	教育学部
入試制度	帰国生入試
試験科目	日本語

出題意図 及び 解答例（解答のポイント）

【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWeb サイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター nyusi@list.waseda.jp

■出題意図

本問は、対話と思考に関する文献を題材として、本文の論旨を正確に理解する力、哲学・教育思想に関する基礎的な知識を活用する力、さらに教育における対話の意義について自ら考え、論理的に表現する力を総合的に問うことを目的とする。特に、教師があらかじめ結論を定めずに生徒とともに問いを検討する「実際の対話」に関して、対話が学習者の思考をどのように促すのかを本文から読み取り、自らの考察へと発展させられているかを評価する。

■解答例（解答のポイント）

問 1　ア　配点：10 点

問 2　エ　配点：10 点

問 3

（解答例）対話の中で相手に問いを投げかけ、自ら考えさせることで、真理や知識に至るよう促す方法。　配点：20 点

（解答のポイント）「対話・問いかけ」「相手自身に考えさせる」「真理や知識に至るよう促す」という 3 つの要素を説明できているか

問 4

（解答例）偽の対話では、教師があらかじめ定めた結論に生徒を導くのに対し、実際の対話では、教師も生徒とともに問いを検討し、議論を整理しながら思考を支える役割を担う。　配点：20 点

（解答のポイント）①あらかじめの結論の有無、②生徒を導くのか、議論の支援をするのかの二つの観点で整理できているか

問 5

（解答例）「実際の対話」では、あらかじめ定められた結論がないため、生徒それぞれの経験や考えに基づく多様な発言が生まれる。そこから、たとえば、本文にある「そもそも嘘をつくことがどれほど重要な倫理的問題であるのか、もっと優先すべき道徳的価値はないのか」などといった、生徒自身や教師が予想しなかった意見や問いが生まれ、それらを手がかりとして、さらに考える必要が生じる。また、他者の意見に触れることで、自分自身の考えをふりかえり、修正したり、深めたりすることもできる。このように、対話のなかで問いや意見を検討しなおす過程そのものが、生徒

の「考える」という行為を促すと考えられる。ただし、そのためには、広がった話題を整理し、議論が続くように働きかける教師の役割も不可欠である。　配点：40 点

（解答のポイント）①本文の理解が適切か、②「なぜ思考が促されるのか」を論理的に説明できているか、③本文の単なる要約ではなく、自分なりの視点を加えて考察し、まとまりのある論述になっているか